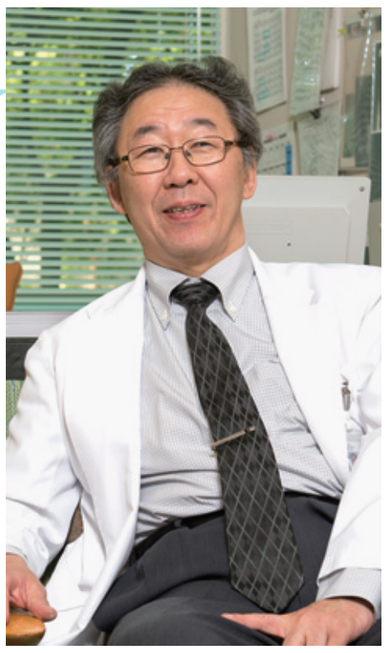
いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌
IBULIVE いぶりぶ
いぶり+Live
NO.40 新年号

前立腺癌について

坪院長の健康講座

院長　坪　俊輔



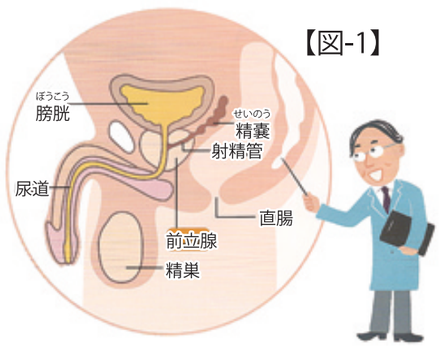
今回は男性の泌尿器科癌の中で最も診療の機会が多い〝前立腺癌〟についてお話しします。

前立腺は図―1に示すような通常クルミ大の臓器で、前立腺液を分泌して精子を保護すると共に排尿の調節にも関わっています。近年前立腺癌の罹患数は急増し、本邦では2015年には98,400人と臓器別にみると男性癌のトップになったとのことです。（ちなみに死亡数は肺癌、胃癌、大腸癌などについで7番目です）加齢は明らかな発病のリスクで、本邦でも50歳を過ぎると発病率が上昇し、全罹患数に対し60歳以上で95%、70歳以上で65%の割合となっています。（図―2参照）また人種によって発病率が違い、生涯罹患率は白人の8人に1人に対し、アジア人は13人に1人となっています。（尚、一生臨床癌に至らずに終わるラテント癌があり、これにはあまり人種差がなく、日本人で25%位とされています）また遺伝的要因の関与があると考えられ、近親者での前立腺癌の発病数が多いほど、またその発病年齢が若いほど高いリスク因子となっているようです。

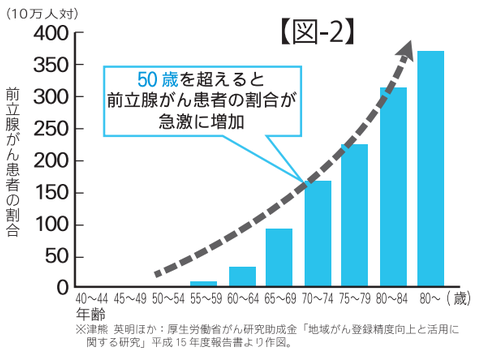
症状については、特に早期の場合特徴的なものはなく、排尿障害で受診した中高年男性の約5%に前立腺癌が見つかったとの報告があります。近年では検診などでたまたま指摘されたPSA（前立腺特異抗原）の高値が診断のきっかけとなっていることが多い印象です。勿論進行すれば、血尿・強い排尿障害といった局所症状、骨痛・リンパ浮腫などの転移に伴う症状が現れます。PSA値・直腸診・自覚症状・画像診断などで前立腺癌を疑ったならば、短期間入院の上、経直腸的エコーガイド下前立腺針生検（図―3参照）を行い、確定診断を得るのが一般的かと考えます。

なお前立腺癌の治療法については、次回にお話する予定です。

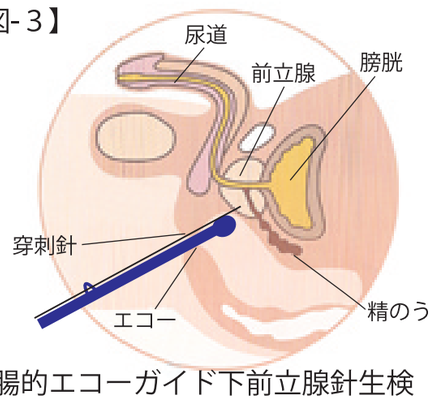
【図-1】



【図-2】



【図-3】



経直腸的エコーガイド下前立腺針生検

入選レシピのご紹介

第2回全国病院レシピコンテスト「コロッケ部門」で入選

昨年の銀賞受賞に続き2年連続!!

この度、昨年 10 月に開催されました「第２回病院レシピコンテスト」（一般社団法人地域健康社会研究所主催）に於いて、全国の病院、クリニック、施設から 50 件応募があった中から、当クリニックの「卯の花入りライスコロッケカレー風味」が、昨年第 1 回目の生活習慣病部門での銀賞受賞に続き入選を果たすことができました。紙面をお借りし、ご報告とお礼を申し上げます。なお、同コンテストの受賞内訳は金賞・銀賞各５件、入選 10 件でした。

卯の花入りライスコロッケ カレー風味

カレー風味が食欲を増進させ、チーズの塩分を上手に利用しました。つなぎとして長いもを使用しているのが特徴で、卯の花を入れることで食物繊維もたっぷりです。

	エネルギー量	食塩	たんぱく質	脂質	食物繊維
主菜１食の値	323.0kcal	0.9ｇ	12.0ｇ	11.9ｇ	5.6ｇ
主菜１食の目安	250 ～ 350kcal	1.3ｇ以下	10 ～ 18ｇ程度	10 ～ 18ｇ程度	2ｇ以上

《材料（1人分）》

材料名	分量(g)	材料名	分量(g)
米飯	60	こしょう	0.01
卯の花	30	長いも	30
玉ねぎ	20	サラダ油	1
とろけるチーズ	10	小麦粉	6
ツナ水煮缶	20	パン粉	6
干椎茸	1	サラダ油	6
グリンピース	3		
醤油	3		
カレー粉	0.5		

作り方

①ご飯、卯の花、玉ねぎのみじん切り、干椎茸を炒め、醤油、カレー粉、こしょうで味付けする

②粗熱をを取った後、ツナ缶、グリンピースを加え、つなぎとして長いもを加える

③中心にチーズを入れボール状にまとめる

④衣をつけ、軽くきつね色になるまで揚げる

芸術評論

豊竹英太夫、六代豊竹呂太夫襲名について

事務長 横井 浩（NPO 法人伊達メセナ協会専務理事）

2014 年（平成 26 年）、ＮＰＯ法人伊達メセナ協会の創立 20 周年記念事業で来伊した、文楽の豊竹英太夫（とよたけ・はなぶさだゆう）さん。

伊達公演をきっかけに、一昨年は北海道教育文化会館で札幌公演、昨年は登別と札幌で「人形浄瑠璃文楽」の公演を行っています。

伊達公演にて親交を深めた私は毎年北海道公演を観賞、人の世の機微や、情愛の表現をもっとも大切にする人形浄瑠璃文楽の魅力にすっかりはまってしまいました。

その豊竹英太夫＝写真＝が明治初期から続く重要な名跡の豊竹呂太夫を、六代目として襲名します。文楽界を牽引してきた竹本住太夫さんら重鎮が相次ぎ引退し、現役太夫の人間国宝が不在となる中、久々の明るい話題となっています。

呂太夫は、盲目になっても語り続けた人間国宝で、英太夫さんの祖父・豊竹若太夫が、三代目を名乗ったゆかりの名跡。五代目は華やかな芸風で将来を嘱望されましたが 2000 年に急逝、名跡復活が待望されていました。

英太夫さんは 1967 年竹本春子太夫に入門。豪快で情感豊かな語り口が身上で、時代物や滑稽なチャリ場を得意とする一方、キリスト劇の「ゴスペル・イン・文楽」を創始、能楽とのコラボ公演を開くなど、独自の活動を続けています。

５月に東京・国立劇場で行われる襲名披露には是非駆けつけたいものです。

column 待合室 No.40

平和の懸け橋となる医療交流

●各新聞社が競い合って年初の「特ダネ」を狙う元旦１面のトップ記事、本年の北海道新聞は「医療ジェット実用化」がこのトップを飾りました。概略はドクターヘリに比べ３倍のスピードがあり、離島も抱える広大な北海道に適す理由で、全国に先がけ本道での実用化が新年度から始まる―、というものです●飛行場のある離島は奥尻と利尻だけであり、空港のない地域も多いことから、ヘリを充実させることが先決では？と感じます。このことから筆者は 1990 年 8 月、大やけどを負い、超法規的措置で海保の救援機によりサハリンから搬送、札医大付属病院で治療を受けたコンスタンチン君（当時３歳）のことを思い出しました。というのも昨年暮れに実現した安倍、プーチン会談の結果を受け、内容は明らかにされていませんが、北方領土を巡る新たな交流が始まることになっているからです●北方領土で暮らすロシア人は現在約 17,000 人、最盛期には 30,000 人以上あった人口は生活インフラの不備や地震による被害で半減しています。その住人が重要視、最も望んでいる交流は医療が大きなウエートを占めると言われ、ロシア政府にとっても避けては通れないポイントと言えます●人道的観点での医療交流は 1994 年からビザなし交流の枠組み内で実行されており、これまで合わせて 98 人の子どもたちが道内の病院で検査や治療を受け、その多くは高度な外科手術を伴ったものでした。このことは当然プーチン大統領も認識しており、2009 年の訪日の際、この支援への謝意を表明しており、医療での交流が両国間の関係改善に貢献していることは間違いありません●また、準トップには「北方墓参空路を検討」の見出しが躍り、両記事に関連性はないものの、組合せには極めて意図的なものを感じます。裏付けはありませんが、なぜ全国に先がけ北海道で医療ジェットの運用が始まるのか？「広大」なだけの理由では説得力に欠けますが、ロシアとの人道的な交流を考えれば頷けます●地域医療の充実が「世界平和」の懸け橋になることが歴史の事実として証明されており、国境を越えた人道的な交流が人類共通の価値観となることは、なんと素晴らしいことか！この流れを汚さぬよう、大切に進展を見つめていきたいものです。

新人スタッフ紹介

金田 晴美 透析室看護助手

昨年 12 月から仲間入りした金田晴美看護助手は豊浦町出身、地元の小・中・高校を経て名寄市の短大へ進学、栄養士の資格を取得しました。短大卒業後地元の国保病院で栄養士として 15 年間勤務し、結婚後専業主婦となり家事と子育てに奮闘していました。

子育てが一段落したころから「社会に復帰し働きたい！」という気持ちが大きくなり、パート勤務などをしてきましたが、縁あって昨年当クリニック採用となりました。趣味はテレビドラマや映画の鑑賞といい、レンタルビデオを借り、「自宅で子どもたちと観るのが楽しみ」と笑顔を見せていました。

15 年間医療関係で働いてきたキャリアはあるものの、「看護助手は初めての経験、覚えることが一杯あるし大変です」と右往左往しながらも「しっかりと頑張ります」と真剣に業務に取り組んでいます。「透析室は患者様との距離が近く、早く皆様に名前を憶えて頂けるよう丁寧に接していきたいです」と持ち前の明るさで動き回っています。どうぞよろしくお願いいたします。

防火訓練

昨年10月、防火訓練を実施

津波避難訓練も併せて行いました

毎年行われている防火訓練を、今年度は昨年 10 月 27 日に実施しました。今回は大地震の発生に伴う津波襲来を想定した避難訓練も併せて実施され、想定外の自然災害に対応する「備え」を強化しました。

訓練には例年通り外来、病棟、透析室など各職場職員が参加し、被害を最小限に留めるためのポイントをチェックしながら万が一に備え、参加者全員が本番さながらの緊張感で訓練に臨みました。

まず防火訓練では午後 2 時に２階の厨房からの出火を想定、火災発生を伝える院内一斉放送による周知から患者様の避難誘導と、３階からの透析患者様の避難を想定し、災害時では危険となるエレベーターの利用を避けた誘導、入院患者様らの避難介助など、安全で確実な避難行動を重点的に行い、実際の火災時には混乱しないよう細心の注意が払われました。

防火訓練終了後、引き続き行われた津波避難訓練は、大地震発生による大津波が内浦湾沿いにも襲来することを想定し実施しました。市のハザードマップによれば、現在想定される津波は最大でも当院の屋上への避難で十分安全なレベルであり、津波避難では「遠くより高く」がより安全な避難とされることなどから、屋上への迅速な非難を第一に対応することを考えています。訓練では大津波警報発令と同時に屋上への避難誘導・経路確認、自力避難が困難な患者様などへの避難介助が的確に行えるかをチェックしました。

両訓練終了後は横井事務長が全体を総括、いざという時に訓練の成果が十分に発揮されるよう各自が高い意識で臨むことを再確認しました。また、大津波警報が実際に発令された場合、発令自体が長時間に及ぶことも想定されるため、あらゆる場面を意識した対応と備えも今後検討していきたい考えです。

透析室忘年会

透析室患者様忘年会を開催致しました

和やかな雰囲気で進行する忘年会

昨年 12 月 11 日、当院透析室主催による「患者様との忘年会」をホテル・ローヤルで開催、患者様とご家族らを交えた総勢 50 人が参加し楽しいひと時を過ごしました。

坪院長のあいさつで幕開けした会は、辻師長と中井主任の乾杯で懇親会が始まり、カリウムやリンの摂取量に配慮した特別メニューを頂きながら和やかに進行、趣味の話題など話も弾み、互いに親交を深める有意義な時間となりました。また、ビンゴゲームやカラオケ大会＝写真＝も行われ、読み上げられる番号に一喜一憂したり、自慢の十八番を披露する患者様など、終始笑いの絶えない忘年会となりました。

普段お話しする機会が少ないご家族様や、施設職員の皆様とゆっくり会話ができる毎年恒例の忘年会は大変貴重なものであり、当院職員にとっては患者様の普段の生活を知り、互いの信頼感を深める上でも絶好の機会となり、今後の治療に役立てたいと思います。

医療法人 社団 泌尿器科・血液透析 いぶり腎泌尿器科クリニック
■発行：いぶりぶ発行委員会
■発 行/平成29年1月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行
伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401
※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。
●発行責任者：横井　浩